

桃太郎神社

桃太郎神社は崇拜と魔法の両方の場所であり、日本の民話桃太郎（桃太郎）のキャラクターが生き返ります。物語は、子供のいない年配のカップルが川に浮かぶ桃を見つけ、中に小さな男の子を発見したということです。犬山市は、この伝説は木曽川のほとりで起こったと言います。桃太郎が育ったとき、彼は両親を離れ、悪魔（鬼）と戦うために旅をしました。途中、彼は話す犬、猿、キジと仲良くなりました。神社の後ろにそびえる桃山（桃山）は、少年が最後に見られた場所と言われ、古くから信仰の対象となりました。ユニークな桃の形をした鳥居（鳥居）が神社に通じています。碑文には、「悪は去る（サル） 病は居ぬ（イヌ） 災いは来じ（キジ）」と書かれています。日本語の同音異義語の言葉遊びであり、桃太郎の仲間を指します。地元の彫刻家浅野祥雲（1891-1978）は、たくさんのカラフルなコンクリートキャラクターを物語の周囲に配置しました。宝庫には、桃太郎の物語に関連する歴史的遺物が保管されています。